

1. 予算規模

平成21年度の一般会計予算規模は、154億2千6百万円で、前年度と比較して、25億6千6百万円、率にして、14.3%の減となっております。

これは、行財政改革の一環として、高利率で借り入れている市債の繰上償還を行うことにより、公債費などの義務的経費の抑制に努めたことや、地域情報化基盤整備事業に伴う光ファイバー網整備事業費が、約21億8千万円の減となったこと、また、骨格的な予算編成としたことから、新規事業の抑制を図ったことが主な要因となっております。

(単位：千円)

区 分	総 額
平成21年度一般会計当初予算額	15,426,000
平成20年度一般会計当初予算額	17,992,000
比 較	△2,566,000

2. 一般会計予算の概要

(1) 主な歳入

1. 市税は、平成20年度実績見込み額等を勘案し、前年度当初比 4.4 %減の 2,730,317 千円を計上しております。
2. 地方譲与税は、前年度当初比 8.0 %減の 231,000 千円を計上しております。
3. 地方交付税は、国の交付総額は、対前年度比 2.7 %の増となっておりますが、本市の当初予算としては、前年度とほぼ同額の 7,400,000 千円を計上しております。
4. 分担金及び負担金は、中山間総合整備事業や林道事業にかかる受益者負担金などを見込んだもので、前年度当初比 5.4 %減の 46,706 千円を計上しております。
5. 使用料及び手数料は、オフトーク使用料の減などにより、前年度当初比 4.3 %減の 294,729 千円を計上しております。
6. 国庫支出金は、前年度当初比 5.3 %減の 1,321,432 千円となっておりますが、これは、まちづくり交付金や、文化財保護事業補助金の減額などによるものとなっております。
7. 県支出金は、前年度当初比 6.2 %減の 1,037,145 千円となっております。道路台帳統合事業の完了により、市町村合併特別交付金が減額となったことが主な要因となっております。
8. 財産収入は、遊休地売り払い収入の減額に伴い、前年度当初比 71.6 %減の 13,317 千円を計上しております。
9. 寄附金は、ふるさと納税制度に伴う、まほろばサポーターからの寄附金などを見込み、1,001 千円を計上しております。
10. 繰入金は、当初予算編成時における財源不足等を補てんするため、

財政調整基金を	170,000 千円	(前年度同額)
減債基金を	100,000 千円	(前年度同額)
特定目的基金を	191,515 千円	(前年度 239,450 千円 20.0 %減)

を計上しております。
11. 諸収入は、前年度当初比 74.6 %増の 128,340 千円となっております。地域情報ネットワーク施設使用料の増額を見込んだことなどによるものです。
12. 市債は、前年度当初比 63.0 %減の 1,261,700 千円となっております。主に地域情報化基盤整備事業債の減額によるものです。

(2) 主な歳出（目的別）

1. 議会費は、前年度当初比 1.6 % 増の 180,735 千円となっています。
議員及び職員の人件費が主なものとなっております。
2. 総務費は、前年度当初比 56.6 % 減の 1,675,238 千円となっています。
主に地域情報化基盤整備事業費の減額によるものです。
3. 民生費は、前年度当初比 1.7 % 増の 4,742,543 千円となっています。
県後期高齢者医療広域連合に対する負担金が増額となったことなどが主な要因となっております。
4. 衛生費は、前年度当初比 4.0 % 増の 1,616,400 千円となっています。
簡易水道事業特別会計に対する繰出金や、美馬環境整備組合に対する負担金が増額となったことなどによるものです。
5. 労働費は、前年度とほぼ同額の 4,014 千円となっています。
市シルバー人材センター運営補助金が主な予算となっております。
6. 農林水産業費は、前年度当初比 2.9 % 増の 1,173,973 千円となっています。
中山間総合整備事業費が増額となったことが主な要因です。
7. 商工費は、前年度当初比 2.2 % 減の 208,634 千円となっています。
水辺の楽校整備事業費が減額となったことなどによるものです。
8. 土木費は、道路台帳統合事業が完了することや、市道整備事業費、まちづくり交付金事業費などが減額となったことから、前年度当初比 14.2 % 減の 925,134 千円となっております。
9. 消防費は、耐震性防火水槽など、普通建設事業費が減額となったことから、前年度当初比 10.3 % 減の 662,750 千円となっております。
10. 教育費は、前年度当初比 8.7 % 減の 1,499,248 千円となっています。
プラスワンスクール推進事業や文化財保護事業費などが減額となったことが主な要因です。
11. 災害復旧費は、災害発生時に機動的に対応するための枠予算として、前年度と同額の 35,000 千円を計上しております。
12. 公債費は、高利率で借り入れていた市債の繰上償還を行ったことなどにより、前年度当初比 6.2 % 減の 2,689,023 千円となっています。
13. 諸支出金は、前年度当初比 11.8 % 減の 8,308 千円を計上いたしております。
各種基金の利子見込額を計上したものとなっております。

(3) 主な歳出（性質別）

1. 人件費、扶助費、公債費を合わせた義務的経費は、8,699,356千円で、前年度当初比2.4%の減となっています。
高利率で借り入れていた市債の繰上償還を行ったことなどから、公債費が減額となったことが主な要因です。
2. 物件費は、前年度当初比1.5%減の1,460,771千円となっています。
引き続き一般行政経費の抑制に努めたことが主な要因です。
3. 維持補修費は、市道維持事業費の減などにより、前年度当初比29.1%減の73,540千円となっています。
4. 補助費等は、前年度当初比0.8%減の2,462,131千円となっています。
プラスワンスクール推進事業費の減などに伴うものとなっております。
5. 積立金は、基金利子の減額が見込まれることから、前年度当初比10.6%減の7,954千円といたしております。
6. 繰出金は、前年度当初比3.8%増の1,423,022千円となっています。
繰出金のうち特別会計に対するものは次のとおりです。

(単位：千円・%)

会 計 名	21年度予算	20年度予算	増減率
住宅新築資金等貸付事業特別会計	8,325	12,036	△ 3,711
国民健康保険特別会計	290,895	284,953	5,942
老人保健特別会計	2,583	37,726	△ 35,143
後期高齢者医療特別会計	117,326	102,646	14,680
介護保険特別会計	531,260	527,648	3,612
一の森ヒュッテ事業特別会計	724	966	△ 242
美馬温泉保養センター特別会計	36,721	29,507	7,214
農業集落排水事業特別会計	100,587	95,340	5,247
公共下水道事業特別会計	137,907	119,558	18,349
簡易水道事業特別会計	156,308	127,870	28,438
計	1,382,636	1,338,250	44,386

7. 投資的経費の中で、普通建設事業の補助事業は、継続事業として実施している中山間総合整備事業費の増額などにより、前年度当初比11.0%増の834,342千円となっています。
単独事業は、前年度当初比85.1%減の421,204千円となっていますが、これは、主に地域情報化基盤整備事業費の減額によるものです。
災害復旧費については、災害発生時に機動的に対応するための枠予算として、前年度と同額を計上しております。